風は思いのままに吹く

ヨハネによる福音書　３：１－１６

司祭　ヨハネ 井田　泉

2024 年 5 月 26 日

三位一体主日

京都聖三一教会にて

今日は三位一体主日です。わたしたちの信じる神は「三位一体の神」です。「父と子と聖霊なる三位一体の神」。このことについて今日はお話しします。

神さまはおひとりなのですが、三つのありようをされ、三重の働き方をされる。それは神がわたしたちを愛し救おうとされる熱意のゆえなのです。その三つとは――

第 1 は父なる神、世界とわたしたちの**造り主**です。

第 2 は子なる神、わたしたちの主イエス・キリスト、**救い主**です。

第 3 は聖霊なる神、ニケヤ信経の言葉を使えば、**命の与え主**です。

それで今日はまず、「造り主」「救い主」について短く聖書からお話しします。そして今日のヨハネ福音書に「霊」が出て来たので、「命の与え主」聖霊についてはそこからお話ししたいと思います。

第 1 に、神は**「造り主」**です。それはまず旧約聖書・創世記第 1 章に語られています。神は光を創造し、天と地を創造し、植物、動物、そして人間を創造された。わたしたちの命は神から来ています。神の創造の力と働きによって、人類が、そしてこのわたしが、皆さんひとりひとりが、誕生し、今も生かされているのです。

造り主である神さまは、わたしたちを造った後はもう知らない、放置するというのではありません。旧約聖書・イザヤ書にはこう言われています。

「わたしはあなたたちの老いる日まで、白髪になるまで、背負って行こう。わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、

救い出す。」イザヤ 46:4

造った方は、ご自分が造ったものに対して最後まで責任を持たれる。**「わたしはあなたたちを造った。わたしが担い、背負い、救い出す」**と言われるのです。これが父なる神、造り主なる神です。

第 2 に、神は**「救い主」**です。父なる神に対して子なる神、わたしたちの主イエス・キリストです。

クリスマスにこの聖書の言葉をよく聞きますね。

「言(ことば)は肉となって、わたしたちの間に宿られた。」ヨハネ 1:14

降誕の意味は、「神が人となってわたしたちのところに来てくださった」ということです。

永遠の神の言葉は、肉となられた。人間は肉であり、汗と涙と血を流すものです。そのゆえに神は肉となって、汗と涙と血を流すものとなられた。喜び、苦しみ、傷つくものとなられた。わたしたちの喜びと苦難を共にするために、人間になられた神。これが救い主イエス・キリストです。イエス・キリストはわたしたちのところに来られ、わたしたちと共にいてくださる神です。

人は傷つく存在です。この世界の悪のゆえに、他者(ひと)の罪のゆえに、自分の過ちのゆえに、わたしたちは傷つきます。また他者(ひと)を傷つけます。傷が深ければ死に至ります。そのようなわたしたちを憐れみ、その傷を癒やすために、自ら傷ついてわたしたちの傷を引き受けてくださった。それがイエス・キリストの十字架です。ペテロはこう

言っています。

「キリストは十字架にかかって、自らその身にわたしたちの罪を担ってくださいました。わたしたちが、罪に対して死んで、義によって生きるようになるためです。そのお受けになった傷によって、あなたがたはいやされました。」ペトロの手紙Ⅰ 2:24

傷ついて、わたしたちの傷を引き受けて、わたしたちを癒やされた。わたしたちの罪を担って死に、そしてわたしたちを新しく生かすために復活された。これがわたしたちの救い主、子なる神イエス・キリストです。

そして第 3 に、神は聖霊、**「命の与え主」**です。救い主イエス・キリストがわたしたちと共にいてくださる方であるとすれば、聖霊はわたしたちの中に宿ってくださる方です。また聖霊は神の息吹、神の燃える愛です。

ところで今日の福音書に**「霊」**が出て来ました。

ある夜、ファリサイ派に属するニコデモが、イエスを訪ねてきました。ニコデモは影響力を持った律法の教師です。聖書の知識は一杯持っている。しかし、何か満たされない。だれにも言えないのですが、このままで生きて死んでいけないような、不安というか渇きがある。一言で言えば、生きた神さまとの出会いを経験しないできた、ということかもしません。それに対してイエスはまったく違う、と彼は感じていました。イエスは神から来られた方、神が共におられる方だ。どうしてもイエスに会いたい、と思いました。人目をは

ばかったのでしょうか。ニコデモは夜、イエスを訪ねて来たのです。

出会って間なしに、イエスにはニコデモの抱える不安と悩みがすぐにわかりました。イエスにはニコデモという人全体が見えるのです。それで挨拶もそこそこに彼に言われました。

「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」

ヨハネ 3:3

ニコデモに言われたのです。あなたは生まれ変わってこそ神の国を見ることができる、と。

ニコデモはこれまで聖書を多く学んで身に着け、その律法の教えを熱心に実践してきた。世間から指導者と認められ、尊敬を受けてきた。地位もあり自負もあるでしょう。けれどもあなたには神さまとの生きた関係が欠けている。

ニコデモはいきなり自分の本質を突かれて、素直になることができませんでした。こんなことを言われて、気分を害したかもしれません。

「年をとった者が、どうして生まれることができましょう。もう一度母親の胎内に入って生まれることができるでしょうか。」3:4

これに対してイエスは不思議なことを言われました。

「風は思いのままに吹く。あなたはその音を聞いても、それがどこから来て、どこへ行くかを知らない。霊から生まれた者も皆そのとおりである。」3:8

ここで「風」と訳された言葉はギリシア語「プネウマ」で、「風」とも「息吹」とも「霊」とも訳せる言葉です。風は思いのままに吹く。言い換えると、神の息吹は自由に吹く。神の霊はみずからが欲するままに働く。聖霊は自由に働きかけて、人を生まれ変わらせる。今、神の霊の風が、神の息吹があなたに吹いているではないか――これがイエスが言おうとされたことでした。しかしニコデモはそれを受け入れることができずに、立ち去って行きました。

けれども神の霊の風は、神の息吹は、イエスの言葉をとおしてこのとき確かにニコデモに吹き込まれたのです。

それから1年、あるいは2年たったでしょうか。イエスは捕らえられて十字架に付けられて死なれました。その時、ニコデモは十字架の下に姿を現します。アリマタヤのヨセフがピラトの許可を得てイエスの遺体を取り降ろしたその時です。こう書かれています。

「そこへ、かつてある夜、イエスのもとに来たことのあるニコデモも、没薬(もつやく)と沈香(じんこう)を混ぜた物を百リトラばかり持って来た。彼らはイエスの遺体を受け取り、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料を添えて亜麻布で包んだ。」ヨハネ 19:39-40

100リトラというと約30kgです。老いたニコデモがイエスを葬るために重い香料を運んできた。

ニコデモはいつのまにか心の中でイエスの弟子となっていました。けれどもそれを伏せていました。しかし今、その姿を現しました。イエスの弟子として嘲笑されても迫害されてもよい。社会的地位も

評判も失ってよい。このイエスこそがわたしの、わたしたちの救い主。ニコデモはアリマタヤのヨセフとともにイエスを葬りました。

ここにあの時イエスが言われたとおりに、新しく生まれたニコデモがいます。あの時、風が、神の息吹が、聖霊が彼に吹き込まれ、彼のうちに宿ったので、今や彼は新しい人になった。悲しみの中にも彼は聖霊の愛の息吹に生かされています。やがて彼は、復活のイエスと出会う喜びを経験するでしょう。

聖霊はわたしたちに宿ってくださる神です。聖霊はわたしたちを内側から新しくしてくださいます。わたしたちを神との交わりの中に生かして命を与えてくださるのです。これが命の与え主、聖霊です。

神は父と子と聖霊という三つのありようをされ、造り主、救い主、命の与え主として三重に働かれる。わたしたちを愛されるがゆえです。神はこのような三位一体の神でいてくださるので、わたしたちを完全に救うことができるのです。

わたしたちの造り主、救い主、命の与え主である三位一体の神さまがわたしたちを祝福してくださいますように。わたしたちに三位一体の奥義を悟らせ、わたしたちに信仰の喜びと力を与えてくださいますように。アーメン